

黎明

題字は、校歌（玄閑掲額）より



令和5年
2月24日（金）

緊張感と配慮を大切に

十四日、県立高校の前期選抜の内定が三年生の該当者に通知されました。私立高校等の入試についても、すでに可否が明らかになっていますが、多くの生徒は三月九日の県立高校の後期選抜を目指して、これから正念場を迎えます。

三年生は、不安やあせりにたくましく立ち向かうとともに、**緊張感と配慮ある言動**を忘れず、卒業までの日々を大切に過ごしてほしいと思います。一・二年生が、三年生の後ろ姿を目に焼き付け、成長してくれることを期待します。

先を見据えての取組

十七日、三年生は、後期選抜に向けての三者懇談会を終え、一・二年生は、学年末テスト発表を迎えました。先を見据え、テストでしっかりと結果が出せる学力を高めるよう、加えて、中段に書かせていただいたことも意識して、一層努力を重ねていきたいと思えます。

また、十七日は、わかほの学習発表会がありました。3人は文化会館大ホールのステージに立ち、少し緊張しながらも、ダンスと体操を元氣よく披露し、会場から温かな拍手をいただきました。終わりの挨拶もきつちりと決めました。



しなやかでタフな学力 ～サステナブルな学び方

学校行事や部活動も含めたすべての教育活動が収斂され、「学力」を伸ばしていくことには疑う余地はありません。しかし、そうした中でも、**授業は「本丸」**であるといえます。

教育には、漢方薬的な穏やかな作用を期待する部分と抗生物質のように即効性が必要とされる一面がありますし、また、児童生徒の生命や心身の健康にかかわるような場合には、外科手術のように緊急・即座の対応を迫られることもあります。

授業においても、漢方薬と抗生物質を使い分けていく必要があると思います。あえて言うところ、漢方薬的な授業による学びの体質改善が、**激しく変化する社会に対応できる「しなやかでタフな学力」**の向上につながるのではないかと考えています。

授業は、「めあて」から「振り返り」までの一連の流れで完結してしまうのではなく、**振り返ることで新たな疑問が生まれ、学びの再生産が始まる**ことが理想です。

「しなやかでタフな学力」は、そこから生まれるのではないかと思えます。**身近な事象の中に潜む、謎・矛盾・不合理**などがきっかけとなって、学びを深めていきたいと思えます。

先月、コミュニケーション・スクール運営委員で「進学へ向けての学力向上も大事だが、その力だけでは心もとない。社会に出て大切な力はコミュニケーション能力。そういう力を育てて欲しい。」というご意見をいただきました。

「しなやかでタフな学力」が、委員の皆様からご指摘いただいた「そういう力」につながるよう、これからも取組を続けます。

「学校日誌」から ～新たな景色へ向かって

新しい昇降口の完成

給食受け入れ施設整備工事の一環として進めてきた生徒昇降口の新設工事が完了して、二十日から使用可能となりました。早速、下駄箱に靴を移動しました。三年生は卒業式までのほんのわずかな間ですが、なんとか間に合ったようです。



オンライン交流会を通じて

二十一日、小中オンライン交流会を行いました。生徒会役員から中学校生活について説明の後、両小六年生と学校の決まりや部活動などについて質疑応答の機会を持ちました。

生徒たちは、小学生の素朴な質問の一つ一つ丁寧に答え、和やかな雰囲気での交流を終えました。中学校生活のイメージが深まり、高い目標や意欲をもって入学してくれるよう期待します。



PTA活動に感謝申し上げます

二十日、第三回PTA合同委員会・本部役員会を開催し、本年度の活動を総括いたしました。一年間のPTA活動へのご協力に改めて感謝申し上げます。おかげさまで、本年度は組織改編等に係る規約改正など時流や学校規模に応じた新たな一歩を踏み出すことができました。次年度へ向けて、一層のご理解、ご協力をお願いします。

